

ふくおか & MAFF

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。

2023.9
Vol.51

2023年9月21日発行

Contents

- ➡ NPO法人 山村塾（八女市）～笠原地区の棚田振興の活動～
- ➡ 築上町液肥濃縮施設 ～濃縮液肥による循環型農業の促進～
- ➡ 令和6年度農林水産予算概算要求を公表

NPO法人 山村塾（八女市）～笠原地区の棚田振興の活動～

稲作や洪水・土砂崩れの防止、美しい風景の保全など多面的機能を持つ棚田は、地域住民等の共同活動によって守られています。今回は、八女市笠原地区の棚田で、「笠原棚田米プロジェクト」を展開するなど棚田振興を行う同法人を紹介します！

山村塾の活動

山村塾は1994年、都市と農村が一体となって、棚田や山林の豊かな環境を保全することを目的に、農業者が中心となり設立しました。事務局のある「えがおの森」（小学校跡の校舎を改修した施設）を拠点とし、滞在型の環境保全ボランティア活動（国際ワークキャンプ）や稲作・山林体験など、地域内外の方々が、一緒になって活動しています。



笠原棚田米プロジェクト

2012年の九州北部豪雨災害からの復興を目指し、翌年に取組を開始しました。同プロジェクトでは、農業者が棚田で栽培した米を継続購入する「棚田米サポーター」を募集しています。現在、85名のサポーターと8軒の農業者が参加しており、農業者は、作付け前に価格と量が決まっているので安心して米作りができます。米は、農薬及び化学肥料の使用量が慣行栽培の半分以下である特別栽培米です。



（写真：山村塾様よりご提供）

笠原地区の棚田

耕作者不在の棚田が増加したことから、山村塾のスタッフと滞在しているボランティアがヤギの放牧を行い、景観の維持管理を行っています。ヤギがいる風景は、地域の方々にも好評で、棚田の約4割がヤギによって保全されています。



NPO法人山村塾
小森理事長

農村は、家族ではなくても訪れた人たちが、多世代で一緒になって色々な作業をできることが魅力ではないかと思います。

地域内外の方が関わりを持てるように発信していくことが、私たちの役割ではないかと考えています！

笠原地区の勉強会に参加しました

笠原地区の夢かさはら自治運営協議会からのご依頼で、同協議会が主催する中山間地域等直接支払制度に関する勉強会に当拠点が参加しました。地区の集落協定や多面的機能支払交付金実施組織の役員の皆様が出席する中、集落協定の集約化や加算措置のご紹介等を行いました。



勉強会の様子（8月29日）

意見交換、ありがとうございました！

築上町液肥濃縮施設 ～濃縮液肥による循環型農業の促進～

同町では、平成6年から、し尿を液体肥料にし、田畑に還元するという環境にやさしく持続可能な取組が行われています。さらに、令和2年度に液肥濃縮施設を建設し、大学や企業などの共同研究によって、今回、液肥から肥料成分を濃縮することに全国で初めて成功しました。研究メンバーの三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社と同町にお話を伺いました！

※同町の循環型農業の取組について、「福岡県拠点だよりVOL.30」でも紹介しています。併せてご覧ください！

→<https://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/attach/pdf/dayori-5.pdf>

濃縮液肥の研究成果を教えてください！

し尿および浄化槽汚泥を原料とする液肥（通常液肥）から繊維等の不純物を取り除き、肥料成分のうち窒素とカリウムを約20倍に濃縮する技術の開発に成功しました。

これまで出来なかった乗用管理機での散布や、灌水チューブの目詰まり解消による施設園芸への利用が可能になるとともに輸送コストや貯蔵スペースの削減も期待できます。また、濃縮液肥は通常液肥と比べ、臭いが気にならないのも特徴です。

濃縮液肥の実証栽培の結果は？

町内の農業者や家庭菜園をしている方などの協力を得て実証した結果、麦、イチゴでは慣行栽培と同等の生育状況となりました。肥料代は9割以上削減できると試算しています！



築上町産業課 古市課長（中央）、下田参事（左）、太田主任主事

液肥濃縮技術については、9月20日（水）に熊本県で開催された「国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラムin九州」でも紹介されました。→<https://www.kokunai-hiryo.com/>

2026年9月2日修正



液肥濃縮施設。九州大学が開発した技術を活用しています。



三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社社長尾部長



濃縮液肥（左）と通常液肥

今後の展望は？

町内の施設園芸作物用のため年間製造量は7tと少量ですが、濃縮液肥により活用範囲が広がりました。まずは、濃縮液肥を施設園芸農家に利用してもらい、町内の小学校や家庭菜園も含め、町全体で循環型農業の普及促進を図っていきたいです！また、液肥製造施設の存在意義や価値を多くの人に認識してもらうことで、通常液肥の利用拡大にも繋げていきたいと考えています！

貴重なお話ありがとうございました！

記事作成担当：福岡県拠点地方参事官室 石原、吉田、平田、山野、石井

令和6年度農林水産予算概算要求を公表

総額は2兆7,209億円（令和5年度当初予算額2兆2,683億円）となりました。「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」を踏まえ、食料安全保障の強化、環境対応、人口減少への対応の3本柱を中心に、新しい資本主義の下、若者や意欲ある農林水産業者が夢を持って農林水産業に取り組めるような環境整備、元気で豊かな農山漁村の次世代への継承等を実現するための農林水産予算を要求しています。 詳細はこちら → <https://www.maff.go.jp/j/budget/r6yokyu.html>

【お問合せ先】

九州農政局福岡県拠点地方参事官室
〒812-0018 福岡県福岡市博多区住吉3-17-21 TEL 092-281-8261（代表）
<https://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/index.html>

